女体（1964）

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 日本
色彩 B&W
時間 95分
初公開日 1964/09/19

【解説】
田村泰次郎の小説『肉体の門』と『埴輪の女』を恩地日出夫が脚色・監督した、パンパンと呼ばれた娼婦の生き方を描く女性映画。武満徹が音楽を担当した。
東京郊外に住む菅マヤは、洋服店を営み埴輪を愛する夫と、一人息子の勝巳とともに暮らしていた。デパートへ買い物に出かけたマヤは、そこで浅田せんと再会する。マヤとせんは終戦直後、東京でパンパン（娼婦）をしていた仲間だった。マヤはかつての生活を思い出していた。二人は他のパンパンとともに暮らしていたが、そこに伊吹新太郎という若い男が転がり込んできたことから、争いが絶えず起きるようになってしまう。それは今でも変わらず、二人は再び伊吹をめぐって対立するのだった。

【クレジット】
監督 恩地日出夫
製作 市川久夫
原作 田村泰次郎
脚本 恩地日出夫
撮影 内海正治
美術 育野重一
音楽 武満徹　Toru Takemitsu
出演 団令子
楠侑子
千之赫子
岩崎豊子
坂本スミ子
南原宏治

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.